

緊急時引き渡しマニュアル

1 引き渡しマニュアルの必要性

- ① 電話やメール等が不通となり、保護者との連絡が取れない状況の中、児童の安否を確認できない不安から、たくさんの保護者が、自家用車で学校に押しかけ、道路の大渋滞を引き起こした。保護者は身動きがとれず、結果的に引き渡しに大変な時間を要した。
- ② 引き渡しルールが作られていなかったため、なかなか保護者が迎えに来ず、学校では、教職員が付き添い、集団下校で児童を家に帰してしまった。しかし、帰っても家に誰もいない家庭では、余震が続く中、児童が大変不安な思いで保護者の帰りを待っていた。
- ③ 震災当日、担任が不在であったために、担任外教員が対応したが、保護者の顔がわからず、引き渡しに時間がかかった。
- ④ 引き渡しカード（名簿）に記載のない人が児童の引き取りに来たため、引き渡しをしなかった。（児童も知らない人であったため、不審者との区別がつかなかった。）

「東日本大震災における学校等の被害と対応に関するヒアリング調査」等より：日本安全教育協会

2 引き渡しを行う緊急時とは

震度5以上の地震、大きな火災、風水害（佐保川の決壊等）、不審者の出没（危険性が高いもの）などの時を緊急時とし、引き渡しマニュアルに準じた下校を検討する。

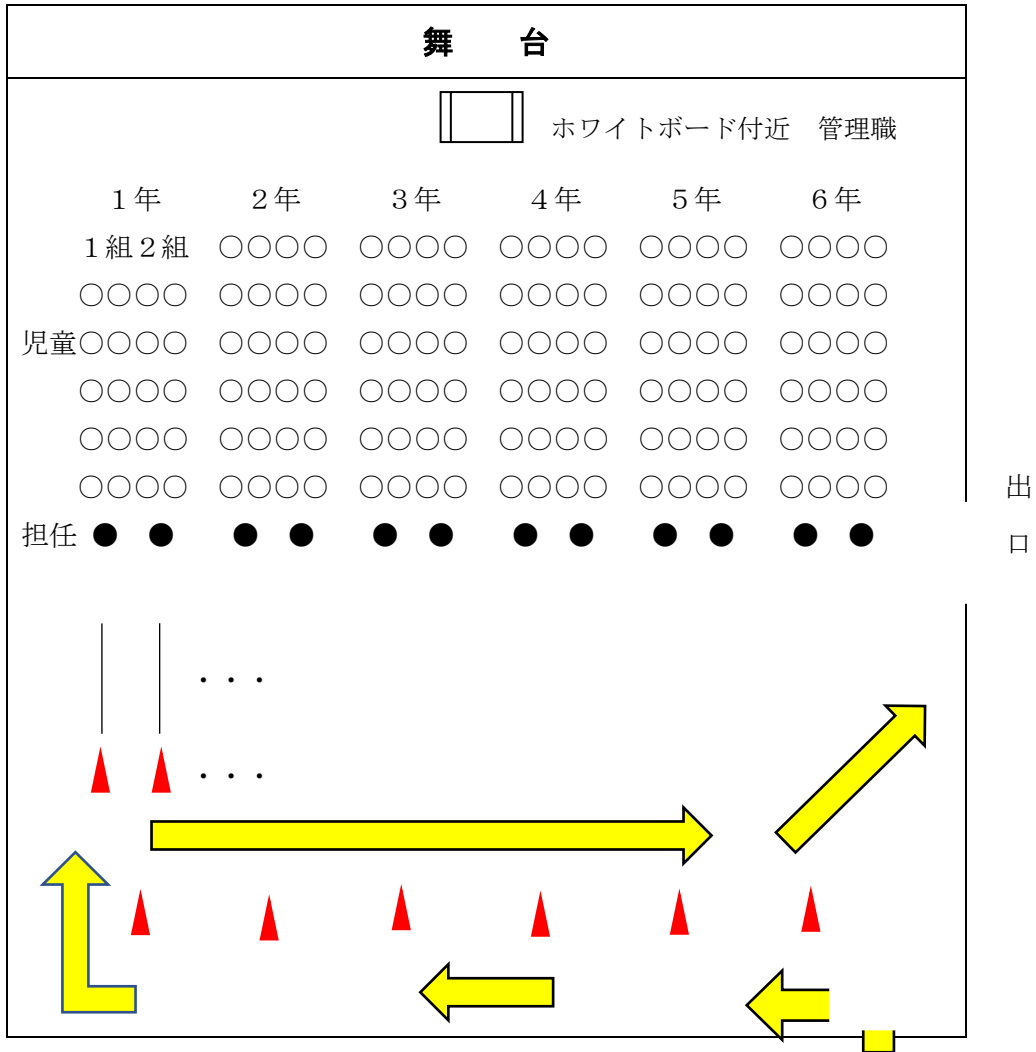
3 引き渡しの流れ

流 れ	お も な 内 容	
放送・メール等での周知	児童・教職員 ○放送にて、緊急時引き渡しマニュアルに準じた下校を行うことを知らせる。 ○担任及び児童 各学級にて、帰りの準備をする。 引き渡しについての再確認と指導を行う。 「この人は誰ですか？」 →「お母さんです。」 ○担任→学級児童を引率する。	保護者等（引き取り者） ○学校情報メール、ホームページ、電話等を通じて緊急連絡を知る。 ○混雑を想定して、学校へは原則徒歩で来る。

	<p>○児童→帰る用意をして、下靴を持って1・2年→4・5年→3・6年の順で体育館へ集合する。学年ごとに各学級2列で舞台を背にして整列させる。</p>	
引き渡し開始	<p>○担任外職員（校長・教頭・事務室含む）</p> <p>㊦＜運動場，道路担当＞</p> <p>＜体育館補助担当＞</p> <p>＜職員室連絡担当＞</p> <p>※臨機応変に対応する。</p>	<p>●体育館へ引き取りに行く。</p> <p>●兄弟姉妹がいる場合は，下の学年から並ぶ。</p>
各自引き渡し	<p>○担任は，引き取り人と引き渡しカードに記載されている名前・間柄を照合する。</p> <p>○担任は，子どもを呼び出し「この人は誰？」と聞く。児童が「お母さんです（お父さん，おばあちゃん等）。」と答え，申し出と一致すれば，引き渡しをする。</p> <p>○引き渡し名簿にサインをしてもらい，引き渡し時刻を記入する。</p> <p>○この時，混雑が予想されるので，担任と補助教職員で協力する。</p>	<p>●各学年担任の場所に行き，担任に児童名，間柄，引き取り者名を伝える。</p> <p>㊦「筒井順慶の母の筒井花子です。」</p> <p>●確認ができれば，お子さんを連れて体育館から出る。</p>
引き渡し完了	<p>○学年担任は集合し，引き渡し名簿の内容と，引き渡しができていない児童とを照合する。</p> <p>○引き渡しができない児童は，学校に残しておく。迎えが来るまで体育館で待機させる。</p> <p>○受け取りのない家庭への再連絡を試みる。</p>	

※状況に応じて，体育館ではなく運動場での引き渡しをする可能性もある。

<体育館での引き渡し図>



※引き渡しマニュアルに準じて、兄弟姉妹がいる場合は下学年から引き取ってもらう。

※運動場で引き渡しを行う場合は、学童側から4年→3年→1年→2年→5年→6年の順に並んでいるので、その順で引き取ってもらう。